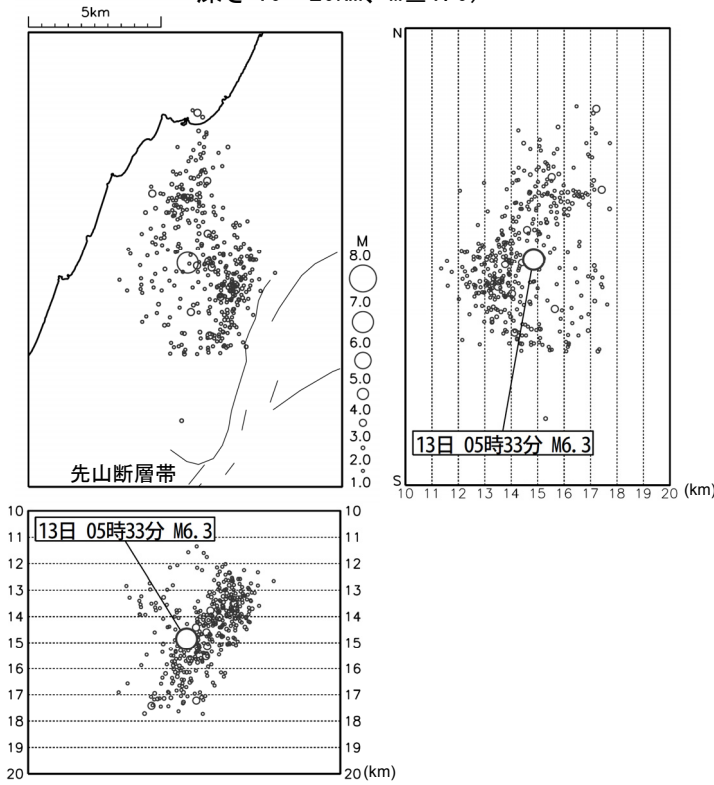


今回の地震の余震分布と本震の発震機構から推定される震源断層は、南北方向に延びる西傾斜の逆断層と考えられる。

1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近（領域c）でM6.0以上の地震は、今回の地震のほか、「平成7年（1995年）兵庫県南部地震」、および1936年の河内大和地震がある。

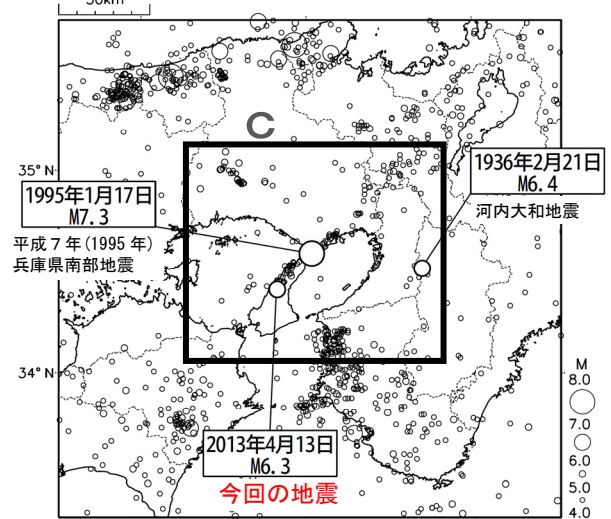
さらに広域でM7.0以上の地震としては、1927年に北丹後地震、1943年に鳥取地震、1945年に三河地震、1948年に福井地震、平成12年（2000年）鳥取県西部地震などが発生している。

領域bの震央分布図と断面図
(2013年4月1日～5月1日、
深さ10～20km、M≥1.0)

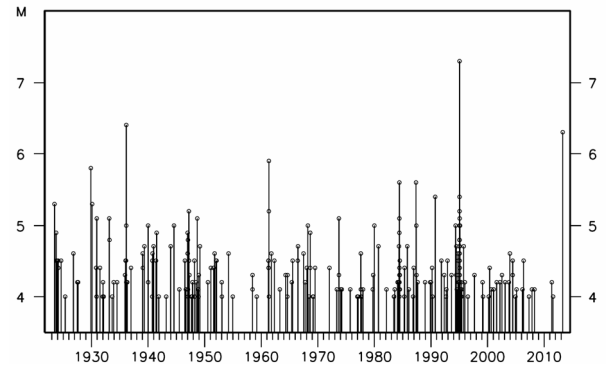


細線で地震調査研究推進本部による
主要活断層を表示

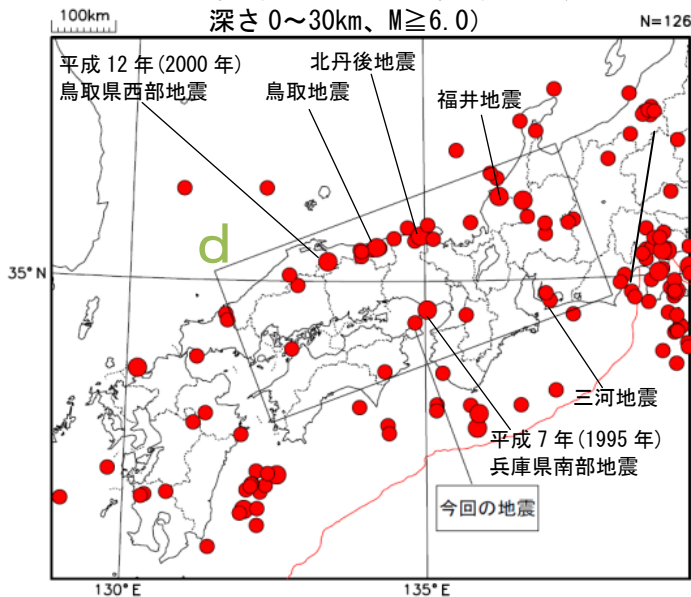
周辺の震央分布図
(1923年1月1日～2013年5月1日、
深さ0～30km、M≥4.0)



領域c内のM-T図



広域の震央分布図
(1923年1月1日～2013年5月1日、
深さ0～30km、M≥6.0)



領域d内のM-T図

